



社会福祉の向上発展

平澤よしお

(86歳)

住所

秋田市

昭和21年から55年まで民生児童委員として要保護世帯の自立更生に努め、社会福祉の向上に尽力した。

この間、豊富な知識と経験、優れた指導力を發揮し、肢体不自由児及び精神薄弱児等の問題に積極的に提言を行ったほか、県肢体不自由児協会では、在宅療育事業や奨学生制度等の事業の実現に尽くした。

また、昭和45年には、秋田県災害遺児愛護会の設立に参画し、災害遺児の自立に向けた各種事業を積極的に推進し、児童福祉の向上に多大の貢献をしている。



洋画の普及発展

あい ざわ けん いち
相 澤 謙 一

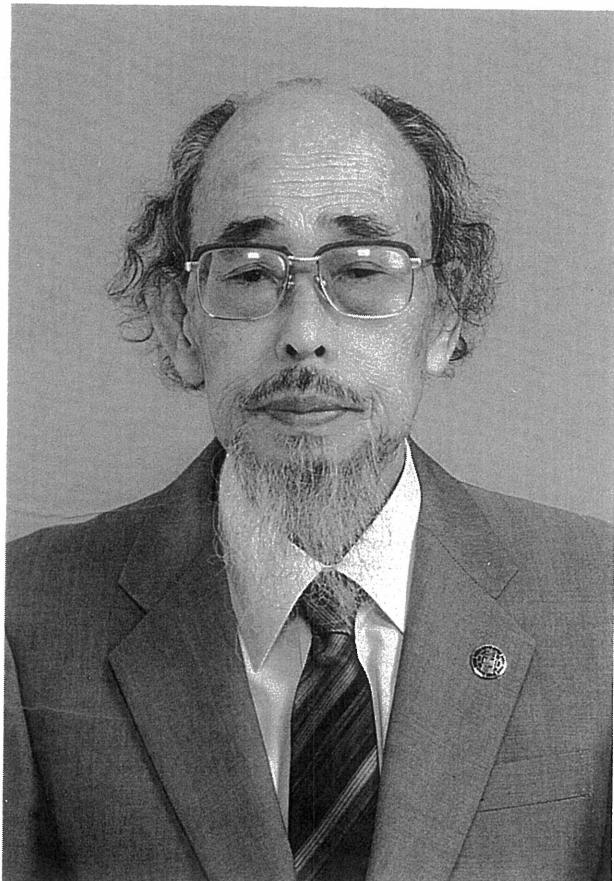
(79歳)

住所

秋田市

長年にわたり教育者として美術教育に力を注ぐ一方、美術家としても研鑽を積み優れた作品を発表しているほか、昭和28年に秋田美術作家協会設立に参画し、秋田県に初めての洋画、彫刻作家の研究団体を結成、更に、38年には美術各部門の作家を結集した秋田県造形美術家協会設立に参加し、総合的な美術展の開催を実現させた。

42年には、秋田美術作家協会副会長に、60年には秋田県造形美術家協会会长に推挙され、作家の資質向上や優れた鑑賞機会の提供に尽力するなど、秋田県美術界の発展に大きく貢献している。



書道の普及発展

佐藤 利三郎
(蒼龍)
(79歳)

住所

秋田市

生涯一貫して古典書道、書法の真髄を守り現在に至っている。

昭和11年現代書道の先駆者上田桑鳩の内弟子として薫育され、昭和22年には郷里湯沢市で雄勝郡湯沢市書道会を設立し、書道誌「書人」を発行、現在129号となっている。

この間に育成した門下生から、中央書道展において文部大臣賞を受賞するなどの書家を世に出し、「書道秋田」の名を高めた功績は高く評価されている。

昭和45年には県書道連盟の理事長に就任、現在は顧問として書道の普及発展に貢献している。



俳句の普及発展

おお かわ こう じ
大 川 港 司
(巽 巨詠子)
(76歳)

住所

秋田市

15歳から「俳星」などで俳句の研鑽を積み、昭和21年には「あざみ」の創刊に参加し同人として現在に至る。また、同年自らも「高秋」を創刊、さらに「幻魚」へと発展させ、その後、県南、県北に「幻魚の会」を創設し秋田市を中心として県全域の後進の指導、育成、俳句の普及発展に大きく貢献している。「幻魚」誌は9月で通巻400号に及んでおり、昭和60年には現代俳句協会の秋田地区会を創設し初代会長に就任、現在は顧問として活動を続けている。



農林業の振興

佐藤政一

(72歳)

住所

仙北郡西木村

戦後、絶滅の危機に瀕していた我が国特産のキヒラトユリの育成、増殖に初めて成功し、「岩清水」と命名、産地化を図り、海外へ球根輸出の先鞭をつけ好評を得るなどユリ資源の保護・保存と育種、増殖技術の開発に尽力した。

また、西明寺グリの生産拡大と産地化に貢献するとともに、クリ、サクラ等樹木の特性研究と苗木生産、栽培技術の開発に尽力したほか、角館のシダレザクラの保護対策と改良に努め観光資源の開発と保護に尽力するなど、地域資源の高付加価値化と農林業の振興発展に大きく貢献している。



建築の振興発展

なか
中
むら
村

たけし
豪

(69歳)

住所

秋田市

昭和22年に建築事務所を開設以来、卓越した知識と指導力により、県内の歴史的建造物である「旧秋田銀行本店」、「旧黒沢家住宅」等の修復保存に尽力するとともに、先端技術を駆使した屋根つきグランドなど多数の公共建築物のコンペ等の審査委員長として優れた近代建築物の誕生に貢献した。

また、昭和48年には秋田県建築士会会長に就任、講習、研修会などを積極的に実施し建築知識の啓発に大きく寄与するなど、建築文化の発展と建築士並びに建築技術者の育成に多大な貢献をしている。



産業経済の振興発展

辻
つじ

ひょう
兵
きち
吉

(65歳)

住所

秋田市

昭和30年以来、秋田商工会議所の常議員、副会頭、会頭として、商工業界の指導育成と活性化に尽力するとともに、平成元年度には、「県都圈構想」を策定し、経済界の進むべく指針を示すなど秋田県、東北はもとより日本における経済政策の視点から各種の提言を続け、本県の産業経済の振興発展に多大な貢献をしている。

また、日本青年会議所会頭、秋田県商工会議所連合会長など経済団体の要職を歴任し各種事業を積極的に推進したほか、消防、教育、芸術、福祉の各範にわたり優れた統率力、指導力を遺憾なく發揮し各分野の発展に大きく貢献している。